

## 学生大使 実施報告書

氏名：曾根捷冨

工学部・機械システム工学科・1 学年：

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：2023 年 8 月 28 日～2023 年 9 月 11 日

### 1 日本語教室での活動内容

わたしは、学生大使として日本語教室を 1 回やらせていただいた。授業の内容は、「山形の文化」というものであった。授業は、パワーポイントを用いて行った。山形の自然や温泉、食べ物、山形弁について紹介した。参加してくれた新モンゴルの学生の日本語レベルが高くて、日本語での意思疎通に困難な場面がなかった。授業前は、自分の授業がモンゴルの学生にうけるのか心配だったが、モンゴルの学生たちが笑うなどのリアクションをとってくれてとてもうれしかった。

新モンゴル学園の 11 年生の日本語の授業に、生徒として参加させていただいた。授業のトピックは、「ファーストフードのメリットとデメリット」というものであった。トピックについての日本語を生徒たちに読ませて、それを日本語の先生がモンゴル語を交えて解説していた。授業は、講義型ではなく、生徒たちに発言をさせてアウトプットさせるというスタイルであった。そのため、日本の学生の第 2 言語のスピーキング能力と違い、モンゴルの学生の日本語能力は、話すという実用的なものであるという印象を受けた。

### 2 日本語教室以外での交流活動

新モンゴルの社会の授業に参加させていただいた。モンゴルの日本語が上手な学生が通訳をしてくれた。授業では、日本語で書かれた世界地図を使っていて驚いた。

他の学内の活動は、日本に留学を希望している学生さんの面接練習をした。面接で質問されそうなことの答えを考えさせて、本番を想定して練習した。アドバイスをすると、とても素直に聞き入れてくれた。日本の大学に対する熱い思いを感じた。また、新モンゴル学園は、9 月から新学期というところがあり、始業式を見ることができた。モンゴルの踊りや楽器の演奏を聞くことができた。

学外の活動では、新モンゴル学園の卒業生と観光に行ったりした。最初の週末は、モンゴル人の学生 3 人と自分を含め山大学生 2 人で森にキャンプに行った。夜は、BBQ で羊の肉をご馳走になった。モンゴルの歌や、昔からの迷信を紹介してくれた。ワイワイ盛り上がった。テントの中で寝た。寒くないようにと、動物の毛皮の毛布を貸してくれた。観光では、博物館やショッピングモールに連れていってくれた。モンゴルの学生が、モンゴル語が全く分からない自分のために、博物館にモンゴル語で書いてある説明を日本語に訳してくれた。

ホームステイということもあり、ホストファミリーと関わる機会がとても多かった。自分がまだホームステイに慣れてないとき、ホストファミリーは「自分の家にいるみたいにリラックスしてね」と声をかけてくれた。朝、晩は手作りのおいしい料理を提供してくれた。小学生くらいの妹と、折り紙をして遊んだ。小さい子どもたちと鬼ごっこやかくれんぼ、トランプなどをして遊んだ。全部モ

## 【学生大使 実施報告書】

ンゴル語で話してきたが、意外と何を言っているのかが理解できた。ホストファミリーが、草原に連れていってくれた。日本では見ることのできない壮大な景色を見ることができた。2週間の滞在中、夕食を自分が作ってホストファミリーにご馳走することになり、ナポリタンをつくった。とても喜んで食べてくれた。

### 3 参加目標への達成度と努力した内容

現地の人とのコミュニケーションを通して、共通点や相違点を見つけることを目標にした。ちょっと疑問に思ったら、質問した。ホストファミリーとコミュニケーションをとるためにジェスチャーで何とかして伝える場面もあった。わたしを家に泊めてくれたホストの学生の男の子は、日本に1年間留学経験があった。日本に対しての関心があった。そのため、わたしの知らない歌や、アニメを教えてくれた。また、夜と一緒に呪術廻戦というアニメを見たりした。日本と違うと感じたところは、モンゴル人は自由だということだ。みんなが、自分の生きたいように楽しんで生活している印象を受けた。ファッションは十人十色であった。また、時間にルーズな人も多い印象を受けた。予定が刻一刻変わることもしばしばあった。早く正確な決断力が求められると感じた。

### 4 プログラムに参加した感想

今回、初めての海外渡航であった。飛行機も初めてでホームステイも初めて、学生大使も初めてであった。モンゴルに行ってみて、経験すること全てが初めてであった。学生大使としての活動を通して、新モンゴル学園の学生の明るさとガッツを感じることもできた。日本の一般的な学生に比べると、日常生活をはじめ、勉強などすべての物事を楽しんでいる学生さん達が多かった。また、日本に行きたいと考えている学生も多かった。そのため、日本留学に向けた面接練習や、志望理由書の練習、日本語能力試験の勉強などを頑張っていた。

ホームステイでは、モンゴル人の家族の一員となって、二週間生活した。食文化など文化が異なることがたくさんあった。その文化の違いを体感することは、とても新鮮であった。ホストファミリーの温かさを感じることもできた。

### 5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回のプログラムを通して、国外の文化を知ることができた。モンゴルの学生たちは活力にあふれていた。自分もそんなモンゴルの学生を見習って、英語能力を高めたり、2年生から始まる専門に向けて取り組んでいったりしようと思った。内陸国の人々の広い心を見習いたいと思った。海外渡航を通して、日本の良いところ、悪いところが分かった。本当に視野が広がることもできた。今後の生活では、モンゴル人らしい自分も発揮していきたいと思った。

【学生大使 実施報告書】



サマーハウスの庭のゲルの中



チンギスハンの巨大な像

【学生大使 実施報告書】



モンゴルの草原



戦車